

あります。ここも押さえておきたいポイントです。

◆治水伝説と三国◆

継体天皇にまつわる伝説といえば、なんと言っても治水工事が筆頭に挙げられます。

オオド王(継体)が越の首長であった時代は、九頭竜川の扇状地(福井平野)はまだ湿地帯であったため、湿地を広大な農地に変えるため、日本海への水の流れを良くする治水工事を行ったとされるものです。



伊伎神社

この治水工事を行うための離宮があったとされるのが三国の『池上地区』に伝承されています。集落の北西部の丘陵部付近にはオオド王(継体)が暮らした跡として『大(王)屋敷山』や『堂池』・『王馬家畑』・『皇子池』などのオオド王(継体)宮跡に因んだ地名が小字名として残され、これらの場所には現在字名を期した標柱が建てられています。これらは歩いて回ることもできる至近距離にあります。

なお集落の中心部には、宝亀6(775)年創建で日本武尊や継体・安閑両天皇を祀る式内社『伊伎神社』があります。

また三国湊には継体天皇を祀り、また三国祭りで著名な三国神社が山王地区に鎮座していますが、もともと九頭竜川右岸の河口の近くの継体天皇を祀る『水門宮』が、明治に入り三国神社境内の桜谷宮に合祀されて現在に至る



梶山古墳



丘陵部に立てられた字名



三国神社



石塚神社



石塚の地名もこの岩に由来するものと考えられています。

ているものです。

◆石塚神社と「磐座」◆

三国を後にして九頭竜川をさかのぼり、今度は春江町石塚の石塚神社に行ってみましょう。石塚村といえば、今、食育で注目されている石塚左玄ゆかりの地でもあります。左玄は福井城下子安町の生まれですが、先祖(曾祖父まで)が石塚村の庄屋を務めていました。祖父が石塚村を出て医業を開業し、その家督を左玄が継いだということだと思えます。そんな左玄ゆかりの集落にあるのが『石塚神社』で、その境内(本殿横)にはオオド王(継体)が九頭竜川の治水を行った時、この岩の上に立ち指揮をとったとされる『磐座』と言われる石が祀られています。



考えたのかも知れません。

◆栗田部 花筐公園◆

栗田部(現越前市)の岡太神社は花筐公園内にあり、遠くからも朱色の鳥居がよく目立ちます。オオド王(継体)が若いころ一時この地に暮らしたとの伝説が残っており、2月にはオオド王(継体)の即位を祝う『蓬萊祀』、10月には、その遺徳に因んだ『迹王の餅』が行われています。

また公園内の山稜には薄墨桜(福井県指定天然記念物)があり、オオド王(継体)が、越前を去ってから次第に色が薄くなっていったため、薄墨桜と呼ばれるようになったといわれています。

近くには、継体天皇の2人の皇子、後の安閑天皇と宣化天皇が誕生した際、産湯に使用したといわれる皇子ヶ池があり、現在は六角形の玉垣が周囲にめぐらされています。この他にも妃や臣下にまつわる古跡も伝承されています。

◆味真野苑と味真野神社◆

次に、越前の里、味真野苑(越前市余川町)と隣接す



岡太神社



皇子ヶ池



花筐像



境内の花筐記念碑



振姫終焉の地石碑

る味真野神社を紹介します。

味真野は前述したとおり『万葉集』とも関わりが深いことで有名です。味真野に赴任した中臣宅守と都に残され離ればなれになってしまった妻狭野弟上娘子との相聞歌はあまりに有名です。苑内には二人の相聞歌碑があり、四季の花々とともに万葉ロマンに浸れる場所です。万葉館や菊人形の町らしく万葉菊花園も設置されています。

苑のとなりが、継体天皇を祀る神社として、昔から人々に親しまれている味真野神社で、境内には謡曲『花筐』の記念碑も建てられています。

この場所は、室町時代の管領斯波氏の庶流鞍谷氏の居館『鞍谷御所』跡でもあり、当時の遺構を良好にとどめ、中世の典型的な城館形式の居館跡として見込えがあります。館跡はほぼ100m四方の方形土塁を残し、南、西、

北側が残り特に南側に残る土塁は、ほとんど原形を残し、延長130m高さ4・5m幅5mで土塁の外周には濠がめぐらされています。

南の濠の向かい側に花筐像が建立されており、撮影スポットになっていますので、この濠と土塁もあわせて是非見ておきたいものです。

また、味真野の南東の文室地区にも五皇神社をはじめとする伝承スポットがあります。

—エピソード—

坂井市春江町姫王地区はオオド王(継体)の母振媛が晩年を過ごしたとされる『姫屋敷跡』(春日神社)が伝承されています。地区名の『姫王』も振媛付けられたと言われています。

戦前の『福井県神社誌』には『継体

天皇の母振媛が姫王村に御在座になった。その跡が今も残っている」と記され、伝承としてその跡に姫王神社(現春日神社)が建立されたとされています。

継体天皇をめぐる県内伝承地歴訪の最後にこの姫王地区を紹介します。福井から三国に向けて車を走らせ、姫王地区に向かうと、地区の入り口にあたる道路道沿いに『振姫終焉の地』の石碑などが建てられています。

振媛がオオド王(継体)の即位まで存命であったかどうかはわかりませんが、母振媛一族の支援なくして継体天皇の誕生はありえなかったことは間違いないでしょう。

そんな越の国の豪族に思いをめぐらしながら今回の伝承地歴訪を終えることにします。